

13年間にわたって撮り続けた証言。沖縄ひめゆり学徒の生存者22人。未だ一切を語れぬ元学徒もいる。

平成19年度(第5回)  
文化庁映画賞大賞  
＜文化記録映画部門＞

2007年(第50回)  
日本ジャーナリスト会議  
＜JCJ特別賞＞

「忘れたいこと」を話してくれてありがとうございます

長編ドキュメンタリー映画

ひめゆり

柴田昌平 監督作品

製作:プロダクション・エイシア 共同製作:財団法人沖縄県女学一高ひめゆり同窓会 プロデューサー:大塚久由美・小泉穂香  
2006年/日本/カラー/16mm/2時間10分/スタンダード 芸術文化振興基金助成事業 文部科学省選定

映画の完成を待たずに3人の証言者が亡くなっている。

ひとつひとつ私たちは失くしていく。全てを失くす前に叶えたい。

おばあち、待っててね、なんにも分かってない私はせめておばあちが好きだった歌をうたおう。

鮮やかに見えるようだ。壕の中の笑い声。あなたが笑ってくれる歌を届けるからね。

“忘れたいこと”を話してくれてありがとう。

“忘れちゃいけないこと”を話してくれてありがとう。

歌手 **Cocco** (毎日新聞「想い事。」より)



この映画は  
生き残った者の真実の叫びであり  
亡くなった友への心の奥底からの鎮魂の思いを  
綴ったものです。  
生存者はほとんどが80歳を越えました。  
いつかは消えてなくなりません。  
でも何年たつてもこの映画は  
ひめゆりの記憶を後世に確かに語り継ぐ  
大事な財産になるだろうと信じています。  
ひめゆり学徒生存者 **本村つる**

## 長く沈黙を保ってきた「ひめゆり学徒」

第2次世界大戦末期、沖縄では住民を巻き込んだ地上戦が展開されました。15歳から19歳の女学生たちも戦場動員され、献身的な看護活動の末、多くが亡くなりました。「ひめゆり学徒隊」です。あまりにもごい体験をへて生きのびた生徒たちの多くは、戦後長く沈黙を保っていました。

## 13年の時をかけ、生存した女生徒 22人の言葉を丹念に紡いだ作品

繰り返し映画やテレビ、舞台上で取り上げられ、「聖なる人々、殉国美談、反戦の語り部…」さまざまなイメージが「ひめゆり」にはつきまっています。私自身には重すぎるテーマでした。しかし縁があってひめゆりの生存者の方々にお会いしてみると、私がかかったつもりになっていたのは余りに表面的なことにすぎないと気づき愕然としました。

ひめゆり学徒たちの思いと体験は、それを伝える側の気持ちが強すぎるあまり、かえって耳を傾けてもらえなかったり、断片として切り取られ伝えられることが多かったのです。沖縄の親戚の家に泊まり込み、彼女たちの証言にじっくりと耳を傾ける日々が始まりました。果てしない記録は今も続いています。

監督 **柴田昌平**

出演:ひめゆり学徒の生存者22人 監督:ひめゆり平和祈念資料館 監督:柴田昌平 プロデューサー:大塚久由美、小泉修吉 撮影:薄穂正樹、一之瀬正史、川崎哲也、川口慎一郎 音声:吉野奈保子、島長良、山根剛行 題字:財前謙  
音楽効果:鈴木利之 音楽演奏:編曲:滝尾三三 MA:門倉直 ポスターデザイン:市川千鶴子 製作:プロダクション・エイシア 共同製作:財団法人沖縄県女部一高女ひめゆり同窓会 2006年/日本/カラー/DVCAM・16mm/2時間10分/スタンダード 芸術文化振興基金助成事業

文部科学省選定

2008年1月11日〔金〕17時から20時 上映会・柴田昌平監督講演開催

主催:東京大学大学院人文社会系研究科グローバルCOE「死生学の展開と組織化」

お問い合わせ先:グローバルCOE研究室 03-5841-3736 (TEL/FAX)

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/shiseigaku/>

(事前申し込み不要)

東京大学本郷キャンパス医学部  
教育研究棟14階 鉄門記念講堂

